



真宗大谷派【東本願寺】光西寺 発行
 雲仙市愛野町甲 271
 ☎ 0957-36-0103

お寺のホームページ
 アクセスお待ちしています！

近頃、京都・東本願寺に行く機会が増えて、「同朋（どうぼう）」という言葉が特に耳に残り、「同朋」ということの意味をあれこれ考えさせられることが多くなりました。「同朋の会」「同朋社会」「真宗同朋会運動」などです。親鸞聖人や蓮如上人も「**とも**の**同朋**」「**御同朋御同行**（おんどうぼう・おんどうぎょう）」と呼ばかれています。「ともに」、「仲間」ということですが、ある方から「同朋社会」とは「浄土」という言葉の現代語訳だ、ということに改めて教えていただきました。「ともに」と言いながら、いつも差別や争いのなかにおいて、そこから抜け出すことができないでいる、そういう私たちに、「浄土」を抛りどころとして、「同朋よ」と呼びかけられているのでしょうか。そして、それは生きている人間だけではなく、すでに亡くなられた人と「ともに」生き、これから生まれてくる人と「ともに」生きている。そういう長い時間のなかで生きている、ということであるように思います。

「死の帰するところをもって生の依りどころとする」という言葉を大切にいただいきたいと思います。

宗祖親鸞聖人御命日・永代経追弔法会

ごあんない

2022年1月28日（金） 午前9時30分から12時まで
 夜 8時から9時30分まで
 29日（土） 午前9時30分から12時まで
 30日（日）

東本願寺出版の月刊『同朋』（1部400円）
 定期購読（年間4200円）は如何ですか？